

# 第50回全国高等学校定時制・通信制卓球大会

# 夕手スポ

橘定卓球部創部以来悲願の

## 全国大会初出場

小山侑希乃(2年)

## 初戦突破!

緊張の初戦  
3対1で勝利し  
定時制卓球部に  
「全国大会一勝」という  
新たな歴史を刻む!



橘高等学校定時制  
運動部通信  
2017.9.4  
第39号

## 前進し続けた夏



二回戦に進むと、青森県の尾上総合高校の選手と対戦し、惜しくも0対3で敗退となったが、全力を尽くした戦いで、小山は、本校定時制卓球部に、「全国大会一勝」という新たな歴史を刻んだ。  
(卓球部コーチ 出浦英一)



全国各地から力のある代表選手が集まる全国大会。会場の雰囲気にもまれるかと思われたが、一回戦、宮崎県の宮崎東高校の選手と対戦すると、一年間頑張ってきた努力が実り、3対1で勝利し、見事初戦を突破した。

8月10日〜13日まで駒沢オリンピック公園陸上競技場で第52回全国定時制・通信制陸上競技大会が行われた。  
北は北海道から南は沖縄まで1000人近くの選手が競技場に集まり、日頃鍛えた力を発揮した。本校からは、四年生で陸上部キャプテンの竹内あいと同じく四年生の須藤和哉が、神奈川県代表選手として出場した。



## 四年生部員の最後の夏 二人そろって入賞



祝 全国第6位入賞  
竹内あい(4年)

県大会で優勝を果たした「女子円盤投げ」に出場した竹内あいの予選のA組で一番目に投げたが、練習の時より距離が伸びず、「思わず「あれ?」と思う記録。しかし、一切指示は出さず見守ることにした。  
二投目。自分なりに腕の振りや腰の回転を修正して距離を伸ばす。それでも予選通過ラインにはまだとどいていなかった。そして、最後となる三投目。さらに距離を伸ばし、ぎりぎり予選通過を果たし、9名+4名の上位13名が決勝へと進んだ。決勝での一投目。予選と同じく、距離が伸びず一番下の記録で13位スタートとなった。  
二投目も、距離は伸びるもののまだ9番目の記録。「入賞は厳しいかな...」という状況だったが、竹内を見るも、表情も明るく、メンタル面も強いので、最後の一投に期待した。  
太陽の日差しが投てきのサークルを照らし、竹内の表情も凛となる。青空に向かって思いっきり投げた。放たれた円盤は水平に弧を描き、21mラインを綺麗に超えていった。  
昨年の悔しさを胸に、二年目にしてやつと掴んだ6位入賞。最後の一投まで諦めない強い気持ちで、リベンジを果たした。

## 第52回全国高等学校定時制・通信制陸上競技大会

# 全国大会のフィールドでリベンジ

須藤和哉 全国大会で味わった悔しさは同じ舞台で晴らす! 竹内あい



祝 全国第4位入賞  
須藤和哉(4年)

竹内と共に昨年も全国大会に出場し、自己記録を更新しながらも入賞にはとどかず悔しい思いをした須藤和哉が、今年も「男子走り高跳び」に出場した。  
大会当日、体がとても疲れているところでも、食事後は休養をとらせることにした。周りの選手が軽くアップをしている中、本人の気持ちに優先させると休養後、体が少し軽くなったというところを含め、予選通過は18名でいよいよ決勝が始まった。観客席から見ていると170cmのバーが高く感じる。本人の表情はすっきりして、緊張感を全く感じさせない。須藤もメンタル面は強く、他校の選手と会話をしている様子も見られた。バーは180cm。  
二回目の跳躍。体ごとマットに突っ込み会場の笑いを誘う。二回の失敗で残るはあと一回。最後の跳躍のスタートを切る。思いっきり上体を伸ばし、体が弓形になり、バーは揺れたが成功。180cmを跳んだ。自己ベストの記録で昨年のリベンジを果たし、4位入賞。  
竹内、須藤の二人が「先生にいい思い出をつくる」ことができてよかった」と言ってくれたことが嬉しかった。  
(陸上部 顧問 熊谷照男)